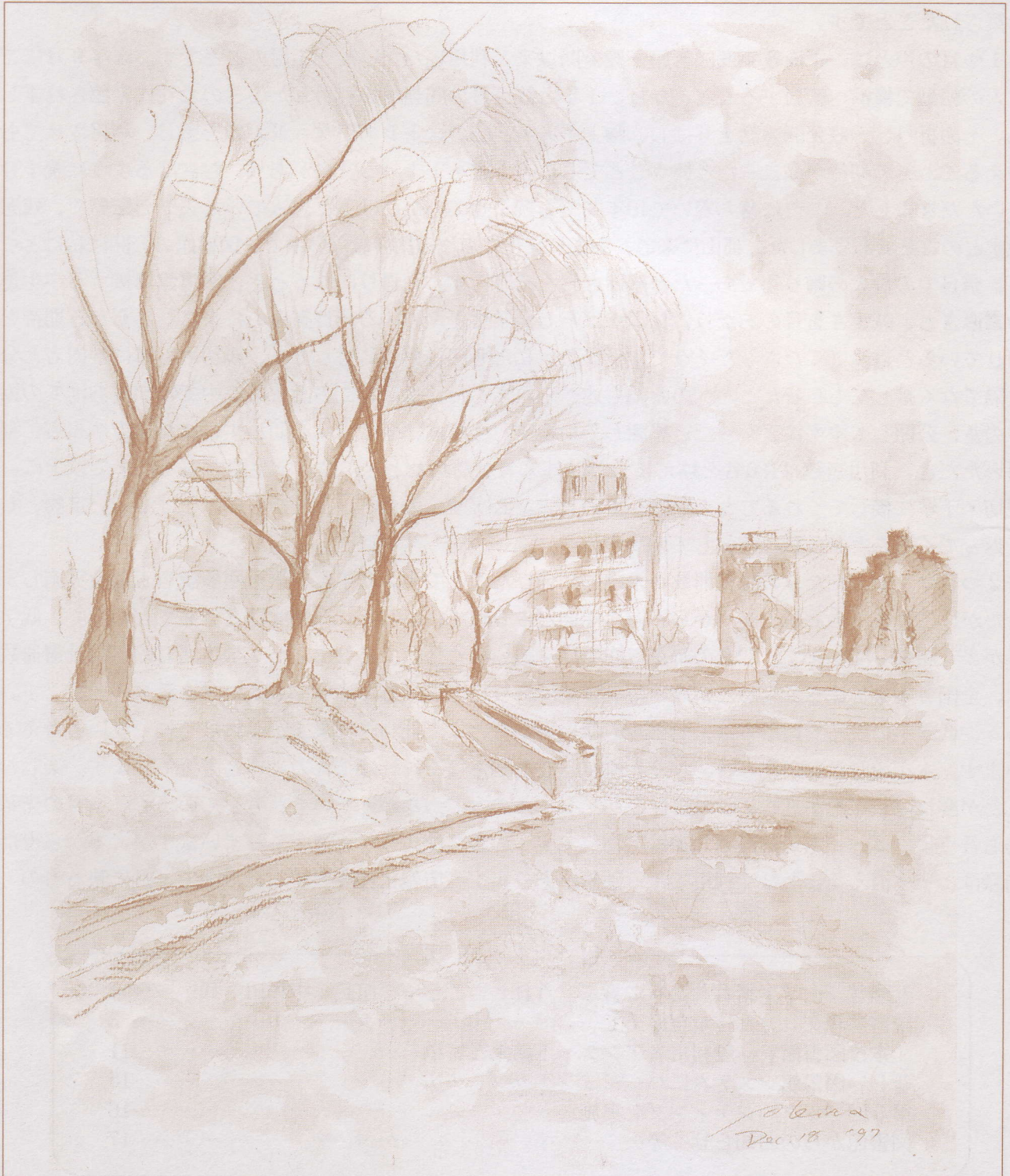


# Library News

図書館だより No.44  
Nara National College of Technology

1998年2月 奈良工業高等専門学校図書館発行



(本校グラウンドより・本校名誉教授 石垣 昭先生スケッチ集)



## 「学生諸君と共に喜ぶ うれしいこと」

館長 中和田 武

平成9年度は、図書館にとってうれしいことが3つありました。その1つは、一般利用者の声。2つ目は、学生諸君の利用率が一段と高まったこと。3つ目は、図書館情報ネットワークシステムが新しく構築されたことです。

1つ目の声とは、平成8年度図書館一般公開以来ご利用いただいた一主婦のことです。昨年9月にご主人の転勤で横浜へ転居することとなり、1年と数カ月の間当館を利用したことのお礼に来館されました。その折り、一般公開の話を目にし、胸トキメキ、心のストレスが吹っ飛ぶのを感じ、利用させてもらえることへの期待が高まったということでした。予想を上回る資料があり、むさぼるように読ませていただきました。ここに落ち着いて10年間でも読ませていただけたらと思っていただけの矢先の転勤で、残念ですとの言葉でありました。郡山に来て、あまり文化にふれる機会のない中で、図書館の公開は私にとって、奈良での最大の贈り物であったと感謝されたそうです。お帰りになるとき、図書館で接する学生達の素直さと、誠実さを目のあたりに見、すばらしい学生さんのいる奈良高専の将来に、さらなる期待を寄せていると言ってくれたそうです。また、私たち図書館員に対しても、親切・丁寧に学内者と分け隔てなく接してもらったことへのお礼も述べられました。私は、この話を聞く中で、学校あげての協力の基、公開して本当によかったと感謝しています。今では、老若男女を問わず、また遠方からもご利用いただき、利用者数は180名を越えました。外来者が訪れたときには、学生諸君もこれまで以上に、親切・丁寧に接してくれることを期待しています。必ずやこのことが自分たちに、すばらしい宝物として返ってくることを、私は確信しています。

2つ目は、1人あたりの読書冊数が飛躍的に伸びたことです。昨年度、第一回多読者表彰を実施しましたが、これまでの右肩上がりから下向き傾向がみられていました。今年度はどうしてどうして、低学年がよく頑張っています。12月の時点で昨年度を追い抜く勢いでありました。学生諸君の年間読書冊数は、全国各大学と比べてみると桁違いに高い値であり、全国高専と比べてもトップクラスの冊数です。時々、低学年の読んでいる本は、レベルの低いものだとよく批判されますが、私はそれで良いと考えています。本を読むことの楽しさ、わくわくする心を掴んでくれればそれでよいと考えています。楽しむことが解れば、年齢が進むにつれ自然とハイレベルの本につながっていくと考えています。諸君の先輩達も言うように、「本から得る知識は宝物」です。お金は使えばすぐ消えてしましますが、本から得た知識は、一生消えることなく利用できる価値があります。情報化社会のまっただ中で、目に映るもの・

### 目 次

巻頭言 一学生諸君とともに喜ぶ うれしいこと一 館長 中和田 武……………	1
読書感想文コンクールを終えて……………	3
「本校図書館」一般利用者アンケート結果と寄稿……………	11
新しい図書館システムにバージョンアップ!……………	15
第9回ブックハンティングを実施……………	16
図書館からのお知らせ 等……………	17

耳に聞こえるもの等は、すぐに忘れ去りますが、本を読み、考え、納得したことは消えることはありません。学生諸君、平成10年度は自分の人生を決定づける本に巡り会える年であるかも知れません。期待を胸に、本を求める航海に出発してください。

3つ目は、学校あげてのご理解の基に新しいシステムが導入されたことです。正式名称は、「図書館情報ネットワークシステム」といいます。このシステムは、これまで以上に学生諸君の教養・学習・研究等をバックアップすることを目的として導入されました。図書館委員会の中に図書館情報システムワーキンググループを置き、平成9年5月から作業に取りかかってくれました。メンバーは、情報工学科の浅井先生をチーフとし、電子計算機委員会から電気工学科の土井先生、事務用電気計算機室から東野さん、当委員会から情報工学科の武藤先生にお願いし、5月以来、何回も繰り返したワーキングの結果、すばらしいシステムが1月22日にセットアップされました。これによって平成10年度からは、より便利に、より幅広く図書館を利用してもらえると思っています。これを機会に、今まで図書館に足を運んだことのない学生も、一度訪れてほしいと願っています。何か新発見があるのではないかと思います。

簡単に新システムを紹介します。これはワーキングチーフの浅井先生がまとめて下さったものです。

#### 《システム導入の目的》

- ① 図書館業務の効率化と蔵書学術情報の管理、利用者サービスの機能化。
- ② 学内LAN、インターネット、学術情報ネットワークへの対応。
- ③ 学習、教育施設としての機能強化（マルチメディア教育の推進）。

#### 《システムの特徴》

目的①を達成するために「情報館95」を導入しました。これによって図書の貸し出し、検索、統計処理等、図書館業務の高速処理が可能となり機能も拡大されました。目的②を達成するために「情報館95」は、クライアント、サーバー型システムでWindows NTのネットワーク機能を利用することによって図書館内にローカルエリアネットワーク（LAN）を構築し、クライアントとサーバーを接続しました。新システムのパフォーマンスを最大限発揮するため、また学内LANが高速化された場合、直ちに対応できるよう、高度な100 BASE規格のものを採用しました。目的③を達成するために、パーソナルコンピュータを3台閲覧室に配置し、ネットワークシステムに接続しました。そのうち1台は「情報館95」専用の蔵書検索端末として利用し、ユーザーインターフェースのもとで高速な蔵書検索を行うことができます。別の1台は、インターネット上のWebサーバー（ホームページ）を利用する端末としました。これによって利用者は、たとえば、検索エンジンを用いて学術情報をはじめ、必要とする各種情報を容易に入手して、学習や研究に役立てることができます。最後の1台は、百科事典や電子地図、新聞の縮刷版などのCD-ROMを活用し、学習や趣味、課外活動などに役立てることができるものとなりました。

以上の通り、すばらしいシステムが稼働を開始し、マルチメディア教材やインターネットに自由にアクセスできる環境が整いました。

図書館委員会は平成10年度を新しい図書館の開幕と位置づけました。ついては、このシステムを学生諸君が教養・学習・研究・課外活動等にフル活用してくれることを期待しています。



# 平成9年度 読書感想文コンクールを終えて

## 図書館委員会

第22回を迎えた校内読書感想文コンクールの審査結果を発表します。今回の応募総数は、429編でした。その中から、図書館委員会と国語科の先生方が慎重に選考した結果、次の8名の諸君の作品を入選作と決定しました。ここに、その氏名を記して栄誉をたたえたいと思います。

最優秀	情報工学科2年	赤松 明美	『モモ』を読んで
優 秀	電気工学科1年	柳澤 佑輝	犠牲になるということ（『塩狩峠』）
優 秀	情報工学科1年	轡 華代子	『変身』を読み終えて
優 秀	情報工学科1年	譽田 太郎	少年Hと戦争観（『少年H』）
優 秀	物質化学工学科1年	久保 陽子	『岳物語』を読んで
優 秀	物質化学工学科1年	藤沢 明子	『いまを生きる』を読んで
優 秀	機械工学科2年	泉 明範	『四万十川』を読んで
優 秀	情報工学科2年	小林啓一郎	『岳物語』を読んで

また、入選とはならなかったものの、選考の過程で優れた評価を得て最終選考に残った諸君は次のとおりです。氏名を記して、その努力をたたえたいと思います。

1M 上村 彰宏 1M 高田 敬士 1E 西村 聖悟 1S 石山 剛秀 1S 北川信一郎 2M 三村 徳彦  
2E 大元 靖里 2E 山本 正明 2S 安部 華代 2S 三宅 喬 2C 上村 恭平 2C 辰己 泰基  
3E 橋本 智 3I 王 承樹 3I 日向 雅世 3C 吉野裕美子

### 〈講 評〉

赤松さん——昨年が続いての最優秀入賞はりっぱです。今は「効率」第一主義の時代、時間の速いテンポにつられて、ともすれば私たちは、思考停止や自己喪失に陥りがちです。他者を思い遣ったりじっくり考えこむ時間は無駄に見えるが、これこそかえって真の時間として大切なのだと説く。皆さんも一度、エンデの原作にふれてみてはどうでしょう。柳澤君——素直に読みとり、丁寧に書いています。轡さん——ちょっと難しい、しかし大きなテーマを提示するこの小説を、正しく読み解いています。譽田君——躍動感溢れる、よい感想文となりました。ふだんから戦争の問題について考えようとしていたからですね。問題意識を持って書物に対することの大切さを、思わせられます。久保さん——親子の間がらについて、「つかず離れず」がよいのだと読み取っています。明快な文章です。藤沢さん——受け止めた感動が、きびきびとしたリズムミカルな文章を通して伝わってきます。泉君——主人公の引きずる問題に自分を重ね合わせて読み取り、考えを深めている点がよいです。すぐれた書物は、読後の自分が一回り大きくなったような感じを与えてくれるものです。小林君——久保さんと同じく『岳物語』を対象にして親子の問題を取り上げていますが、ちょっと大人っぽい書き方になりました。2年生の貫録でしょうか。入選作に共通して優れている点は、自分の目でしっかりと見、深く考え、自分の言葉で的確に表現していることです。

総じて、応募作品はどれもよく書けており、諸君の努力と苦心の跡がうかがえました。自分の考えを作文にまとめ上げる作業は、創造的な仕事であるからこそ苦しくつらい営みです。しかし、やり終えた後の喜びがどんなに大きなものであるかは、書き手である諸君が誰よりもよく知っていることですね。



多くの諸君が、自分の選んだ本について、「読んでよかった」「この本をみんなに薦めたい」と書き記しています。読書感想文コンクールは、諸君の、そうした目に見えない力と声とによって支えられ励まされて、今日まで続けて来ることができたのです。いっその力作が寄せられるよう期待しています。

(国語科 細井)



## 入 選 作 品 紹 介

### 『モモ』を読んで

情報工学科2年 赤松明美

「自分の人生はこうして過ぎていくのか。」

「自分は無駄に時間を過ごしているのではないか。」

などと、思ったことはありませんか。そんな人たちは気をつけて下さい。あなたの下に「灰色の男たち」が現れるかもしれませんから……。

灰色の男たちは、人から「時間」をうばう者たちです。彼らはいいます、「あなたは時間を無駄にしている。」と。人は誰でも、一度くらい、無駄に時間を使ってしまったことがあるはず。彼らはそんな人の心の奥を読み取ります。例えば、ある人にかれらはいいました、「耳の聞こえない母をあいてに話をすることや、何をすることもできないのにインコを飼うことは時間を無駄にしてい

る。」と。また、「本を読んだり、映画を見たり、一日を振り返ったりする時間も……。」

でも、それは本当に「無駄な時間」なのでしょうか。あなたはどう思いますか。私はそうは思いません。それでは、いったい何が「大事な時間」なのでしょう。本の中で時間をつかさどる者はいました。「光を見るために目があり、音を聞くために耳があり、そして時間を感じるために心がある。」と。そう、人は心があるから、考える力があるからこそ、時間に意味があるのではないのでしょうか。耳の聞こえない母に話しながら、何かを感じれば、その時間は無駄ではないと思います。いえ、そんな時間こそ大事なのだと思います。

時間は途切れることなく、しかも無償で与えられるものです。人は皆、「時間の大切さ」を忘れがちになります。一瞬、一瞬の時こそが大切なのです。そしてその一瞬、一瞬に考えることが大事



なのです。それでは時間を大事にするとはどういう事なのでしょう。

私たちの社会で時間を大事にするとは、短時間でより多くのことをすることだと思います。物事は合理化、単一化、高速化され、それが文明の進歩とされて来ました。町には、集合住宅が建ち並び、道路には車があふれ返っています。これが二十世紀です。世の中はもっともっと高速化していくことでしょう。でも、それは少し怖い気がします。いつか、人の思考が物事の進む速さについていけなくなる日がくる。人が物事を考えられなくなれば、時間の意味が無くなってしまいます。

「モモの世界」の大人たちは忙しさに追われて子供の世話ができなくなっていきます。最初は夜寝る時に本を読んであげられなくて、テープを買い、一緒に遊んでやれないので、おもちゃを買っていました。そしてそれはだんだんエスカレートしていきます。外で遊ぶと交通の邪魔になり、将来に役立たない遊びは時間のムダだといわれ、外で遊ぶことは禁止され、大人の監督下で強制的にたまる遊びをさせられます。皆、決められた事をし、同じ考えを持ち、考え出すことができない、そんな人を作ることが本当のためになるのでしょうか。人のことを思いやることもできない世界——この世界が、いつか「現実の世界」の話になるかもしれません。

時間を大事にする。私は思いますが、それは時間自身を大事にするのではなく、その時、感じた気持ちを大事にするのではないのでしょうか。誰かのことを思いやる時間を持つことに意味がないとは思えません。思いやること——その気持ちさえあれば、「モモの世界」は「本の中の世界」のできごとにすぎず、「現実の世界」の話にはならないでしょう。

時間はどんどん流れていきます。未来は今になり、今は過去へと変わり続けます。でも、私たちは、その時間に流されるのではなく、つないでいたらいいなと思っています。未来は分からなくて不安だし、過去は、正しかったと言い切れませんが、今、この瞬間の私を大事にしたいです。そ

して今、この瞬間の皆を大事にしたいです。どの人の今も同じだけ大事だから……。時間だけは誰にも公平に訪れます。お金持ちにも貧乏な人にも、黒人にも、白人にも、大人にも、子供にも、私にも。そしてあなたにも。

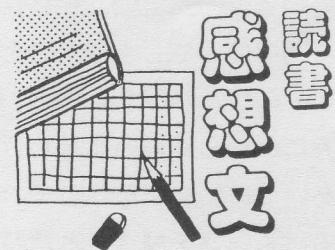
## 犠牲になるということ(『塩狩峠』)

電気工学科1年 柳澤佑輝

「他人の命を救うために、自分の命を犠牲にできるだろうか……。」この本は僕にそんなことを考えさせた。口では何とでも言えるだろう。しかし主人公、信夫にはそれができたのである。

この本、『塩狩峠』は僕が中学生のとき、担任の先生にすすめていただいて以来、ずっと読んでみたいと思っていたものだ。そして今、読んでみたことが正解だったと確かにいえる。

永野信夫、彼は裕福な士族の家に生まれ祖母のトセに厳しく育てられた。母はというと、信夫が生まれた直後、キリスト教徒だったばかりに、仏教徒であるトセに家を追い出されたというのである。信仰する宗教が違うだけでそこまでしなければいけないのかと、僕は信夫の母に哀れみを感じた。現在では、よほどのことがない限りそこまでしないだろうが、明治時代の日本ではキリスト教徒は「ヤソ」と呼ばれ、極端に嫌われていたそう。信夫はトセから「母親は死んだ。」と聞かされていたのである。そして、キリスト教は間違っただけの宗教と教えられた。僕は少し、トセのやり方に卑怯さを感じた。信夫の身になってみると、腹立たしくもあった。しかし、そんな信夫が後にキリスト教を信仰し、教会の日曜学校長にまでなろうとはこのとき誰が思っただろう。





信夫は少年のころから多感で、数々の悩みをもっていた。トセが死んでから帰ってきた妹、待子や母、菊ともしばらくはうまくいかず、母に甘える妹に嫉妬することもあった。そんな彼がもっていたとてつもなく大きな悩み、それは「死とは何か」であった。「人間は何のために生まれてきて、どこへ行くのだろうか」という悩みを抱いている信夫が、とても他人には思えなくなっていた。僕もそんなことを考えると眠れなくなることがある。しかし、僕の考え方など比べものにならないくらい信夫は、死について真剣に考えていたのだ。その陰には祖母トセと父の貞行の突然の死があった。僕の家族はみんな元気で、急に死んでしまうなんて考えられない。いや考えようとしなさい、考えたくない。といっても、よく叱ってくれたトセや、「いくら士族だからといって他人に対し差別意識をもってはいけない。」といましめてくれた貞行の死は、現実であった。

心のよりどころが当然、必要になるだろう。信夫にとってそれは親友の吉川であった。吉川にだけは、どんな悩みでもうちあけられた。僕にそこまでの親友がいるだろうか。彼には足が不自由で、肺病とカリエスという重い病気をわずらった、ふじ子という妹がいた。世間から差別されていたが、澄んだ心をもつ彼女もまた信夫の心の大きなよりどころだった。信夫は彼女を愛し、ついに結婚することになった。

結納の日の朝、事件は起きた。札幌に向かう信夫を乗せた客車が塩狩峠で暴走、声もなくおびえる乗客、信夫は危険をおかしてハンドブレーキに手をかけ、客車の下じきに……。やっと幸せをつかみかけていた二人だったのに……。

胸に熱いものがこみ上げてきた。僕には、自らの命を犠牲にすることはできないだろう。しかし、信夫にはそれができた。何が信夫にそうさせたのか。キリスト教徒なら誰でもできたというわけではないと思う。自分の人生を見つめ、他人の人生をも見つめてきた信夫だからこそ、できたのではないか。

信夫の進む道はキリスト教にあった。僕にも進

むべき道があるはずだ。それが何であるかはまだわからないが、自分なりの道を見つけ、歩んでいきたい。他人のために、自分のために。そして、「差別」という名の暴走客車を止めるために……。

## 『変身』を読み終えて

情報工学科1年 轡 華代子

ある朝、不安な夢から覚めると、自分の姿が一匹の、とてつもなく大きな毒虫に変わってしまっているのに気がついた。

こんな一行が、最初に目にとびこんできて、私は一体何がおきたのかわかりませんでした。しかし、しばらく読んでいくと、だんだんと、わかってきました。グレゴール・ザムザという一人の平凡なセールスマンが、不安な夢から目覚めたところ、何のまえぶれも理由もなく、一匹の大きな毒虫に変わってしまったというのです。

普通の家庭に生まれ、忙しいながらもセールスマンとして働いていた、このグレゴール・ザムザが、何故こんな“毒虫”になってしまうという災いを受けなければいけないのだ！と私は、疑問だらけでわけがわかりませんでした。

そんな私とは反対に、当の本人は、気分をめいらせながらも、その事実にはさほど動揺することもなく、自分の姿をまじまじと見つめます。固い甲殻の背中、まるくふくらみ、褐色をした弓形の固い節で分け目をいれられた腹部、頼りなく目の前でひらひらする足、白い斑点のある箇所……。たんとつづられる描写は、どれも克明で冷たく、彼を安心させる事は、何一つない事実ばかりでした。

そして、ついにその事実は、彼の周りの人々にもつきつけられます。彼が、自分の部屋からはい出ようとする、母親は混乱して、金切り声をあげて泣きわめき、父親は、両手にステッキと新聞を持って、大声をあげて彼を部屋に追い返そうとする始末……。彼の声も、ただのうめき声にしかならず、その日を境にして、家族は彼の救いにはならず、どんどん彼を追いつめる存在になってい



きます。家族も彼の存在を、どんどん恨むようになりまます。

「家族なのに、ひどい！」と思わず言いたくなりましたが、実際、自分の家族の中で、そんな事がおこった時、今までのように接することができるか自信がありません。私も、この家族のように、その存在を恨み、いっそ死んで欲しいと願うかもしれない。

そして、そんな中、彼はやせ細ってついに死んでしまいます。それとは反対に、自分達を苦しめていた存在から解放されたのだと喜びあい、そして心はずませ、軽快な足どりでピクニックに出かける家族……。私は、はじめ彼は最後には、もどおりになって前の生活をとりもどせるだろうと思っていたのに、救いも希望の光も結局は与えられず、孤独な密室で息をひきとってしまった。彼は、死ぬことでしかこの凶運から自由になることができなかつたのが、あわれでただただ、かわいそうとしか言えません。

そして、この話は身近な“家族”の中で起こることで、さらに恐いものになっていると思いました。ごく普通の家庭——危険な事には面していないような、一見安全な所にみえて、本当はいろんな危険に接していて、またその危険を持っているのかもしれない。そうともわからずに「自分は大丈夫だ」と思い込んで、生きているのかもしれない。そんな風に私は思えてきます。だから、そんな不安定さをこの作品がついたと私は思います。

この物語は決してあと味のよい話ではありません。けれど私は、この作品を通して、自分の足元にある一番身近な家庭を改めてみつめることができ、そして大切にしたいと強く思いました。



## 少年Hと戦争観（『少年H』）

情報工学科1年 譽田太朗

まず、なぜ『少年H』を選んだのか。授業で先生が一番推薦していた本でとても興味を持った。ちょうど去年は受験勉強にどっぷり浸かっていたので戦争についてしっかり考え直そうと思っていたからだ。家に帰ると本棚に少年Hが2冊。偶然にも母が借りていたのだ。何だかうれしくなって引き寄せられるように昭和前期への扉を開いた。

Hとは？ 単純に「妹尾肇<sup>はじめ</sup>」だからである。四人家族で父、母、妹。父は数少ないHの理解者であり、戦争についてのHの疑問を明快に答えてくれる立派な父親。洋服仕立て屋で仕事柄外人の知り合いが多い。後に消防士になる。母は筋金入りのクリスチャンで、「愛」が口癖。妹はお兄ちゃん思いで泣き虫。Hより二歳下。家は山と海に挟まれているので遊び場には困らない。毎日友達と走り回る元気溢れるH。日独伊三国同盟、独ソ不可侵条約、太平洋戦争開戦へとだんだん戦争色が濃くなっていく。「大和魂」一色の学校で国への異議を漏らすH。先生から拳の雨が降るが裏でHを理解する先生もいる。一番の理解者は父。毎回Hの話し相手。授業が減り農作業に変わっていく。遊ぶ余裕など無い生活。大空襲に襲われ火の海を必死に逃げるH。家が焼けてしまう。食べ物に困ったり機銃掃射されたりするがなんとか生き延び終戦を迎える。精神的に疲れたHは家出したり自殺を試みたり……。でも無事学校を卒業し、紹介された工房に住み込み、自立していく。

この物語の一番の驚きは「神国日本」の雰囲気<sup>雰囲気</sup>が充満している学校で堂々と国政を批判するHの度胸であった。特に軍事教練の教官に対する反抗が一番激しいので読んでるこっちの方がドキドキする。いくら殴られても意志を曲げなかったHは素晴らしいと思う。そして家に帰ると父親がHの疑問や意見を聞き、それにしっかり答えてくれる。戦争下でこういう立派な人は少なかったと思う。良い父をもったHは幸せだっただろう。

もう一つHの父に感心させられたことがある。



在日外国人との接し方だ。近所の人に「あの家はスパイ一家だ。」と噂されても気にせず良心的な行動をとっていた。現代人でも見習うべき人格者だと思う。また忘れてはならないのが一家を率先して最後までキリスト教信者を貫き通した母である。この信念の強さは称賛すべきである。妹尾一家には芯の通った人が多いということを感じた。Hの友人達にも感心した。ひもじい思いをしている時も、空襲でみんなの家が焼けてしまったときもお互いの心を察し明るい話題で励ましあっていたからだ。現代の子供達に欠けている部分だと思う。

読み終えた後、著者が読者に伝えたかったことは何なのか？ 自分なりに検討してみた。まず戦争の実態が明白に、しかも理解しやすく記してあった。新聞の誤報や配給の少なさ等。そして一般人がどれだけ辛い思いをしていたか。それらを所々に出てくるHの短いセリフが読者にまざまざと伝えてきた。この物語を通じて著者が伝えたかったことは、自身の戦争を否定する心であると思う。私はこの本から学校で習う様な形式じみた戦争観ではなく、同世代の目から見た生の戦争観を学ぶことができた。戦争体験者が減っていく中で戦争の恐ろしさを後世に伝えるため、このような本は貴重だと思う。私自身も次世代に伝える努力を怠るなと本書に諭された気持ちだ。

過ちを繰り返さぬ為。

## 『岳物語』を読んで

物質化学工学科1年 久保陽子

この『岳物語』は、椎名家の長男「岳」と、その成長を見守る「おとう」との美しい親子の物語です。私がこの話を読んでゆくうちまず強く印象に残ったのは、「おとう」は岳に対して丁度良い距離で接してきたのだな、ということです。親は、自分の子供のことを「所有物」扱いしてしまいがちです。私は時々親の言動でそれを感じます。岳のおとうさんは、自分の考えや教育方針を岳に押しつけたりしません。周囲の親たちが子供を塾へ

通わせ、よい学校に入れることばかりに一生懸命になっていても流されません。岳を本当にのびのびと育てています。放っているという意味ではありません。岳個人を尊重しているし、岳の成長を近づきすぎず離れずに見守っているのです。岳を頭ごなしにしかったりもしません。これは、岳が彼の友達の家でお金を盗んだという疑いがかけられた場面を感じたことです。その時「おとう」は岳に対して詮さくはしませんでした。岳にそれとなく返すね、返ってきた岳の言葉を聞き、岳はやっていないことを確信したからです。岳のことを彼はよく理解し、信じているのです。

岳は、そんな父親の良い接し方のおかげで、とても子供らしく、素直で、しっかりした少年です。ケンカはめっぽう強く、負けたことはありません。釣りにすっかり心を奪われ、いつのまにか次々新しい釣りの知識や技術を覚える岳に、「おとう」はいつも一瞬とまどい、次には満足感を覚えるのです。

岳のお父さんは、仕事柄、度々世界のあちこちへ旅行に出ます。彼は冒険好きなのか、未開の地へ行くこともよくあります。1~2カ月留守にすることもしばしばです。岳は3年生のころまでは、帰ってきた「おとう」に、飛び出してきてしがみついていた。それが、4年生以上になると、プロレスの組み合いのような形で坊主頭をおしつけてくるようになり、3カ月前に帰ってきた時には、トレーナーのズボンのポケットに両手をつっこんだまま「おとう」の顔を見てにやりと笑っただけでした。そんな息子を見て「おとう」は、確実に岳が大きくなっていることを実感するのです。長い旅行から帰ってきたある時、「おとう」は岳の声変わりに気づきます。しばらく会わないで久しぶりに会うと、息子はその度に変化していることに「おとう」は喜んだり、心配したり。やがてどんどん自分の知らない世界に突っ走ってしまうのではないかと少しさみしく思う反面、楽しみに見守っている椎名さんの気持ちが感じられます。旅行から帰ってくると、二人で釣りにでかけたりします。それは岳にとっても「おとう」とと



でも貴重で楽しい時間なのです。私は、時々親子で共通の楽しい時間をもつことは、とても素敵なことだと思います。一緒にいる時間が少なくても、共通の趣味を持ち、一緒に楽しむことができれば、親子の心は離れていったりしません。近づきすぎず、離れないという距離を保つことはとても理想的だと思います。一見簡単そうで、誰にでも真似できることではないと思います。

この物語を読んで、親子の本当の意味での愛情と、今の親たちに欠けているのは何かということがわかった気がします。それは、少し離れて子供を見守り、社会的に独立させてゆくことだと思います。

## 『いまを生きる』を読んで

物質化学工学科1年 藤沢明子

私がこの本を読みはじめた理由——それは、感動する青春学園ドラマが読みたかったからだ。前から一度は読んでおきたい本のベスト10に入っていたこともありこの本を選んだ。

この本のストーリーを紹介しよう。舞台は1959年のアメリカ。厳格な校風で有名な名門校に新任の国語の教師キーティングがやってくる。彼は夢や理想を信じるロマンティストで、授業の仕方、物の考え方も型破りなスタイルで熱く生徒に語りかける。生徒達は、彼のやり方にとまどいながらもだんだんひかれていく。

この中で主になる7人の少年がいる。トッドは両親から相手にされていないと悲しむ内気な少年、チャーリーはいたずら心のある少年、ニールは敵しい父を持ちそのため苦悩して自ら死を選んだ優しすぎる少年。その他キャメロン、ミークス、ピッツと計7人だ。彼らはキーティングが学生時代に結成した《死せる詩人たちの会》を復活させる。だが思わざる事件が彼らを巻きこんでいくといったストーリーである。

この中には多くの著名な作者の詩が引用されている。その中で私が強く印象づけられたのはラテン語で“カムペ・ディエム”だ。これは訳すると

“今日を楽しめ”になる。この言葉を聞くだけでキーティング先生の性格がわかりそうだが、彼は、いきなり机のうえに立ったり、外に出させて行進させたりさせるが、すべての行いにはちゃんとした理由があり、それを生徒に教えようとしていた。今現在、「こんなユーモアスなことをする先生はいるのだろうか。」と考えさせられた。少年たちの《死せる詩人の会》を通して彼らは、今までの自分の殻を破りそれぞれの人格を現しだす。これを思春期と呼ぶのだろうか？ キーティングという先生の存在感のあらわれだと思う。

この物語は、「自由」に生きることの大切さも教えてくれた。私は、今、自由に生きている。学校教育の枠の中でも自分らしさを求めながら生きている。個性というのは一人一人にあるものでそれを大切にしていけばいい。なぜならば、人間みんな同じだとなんの変化もないからだ。顔や目の色、髪の色、性格、考え方、それぞれ違うからおもしろいんだと思う。十人十色という言葉があるように「自分流」をとことん追求すべきだと私は思う。

そしてこのクライマックスは、学校を去ることになってしまったキーティングへ、彼が机の上に立っていたように生徒達も同じようにし、無言の敬意を送るというシーンだ。生徒からの信頼感を得ながらも責任を取り、去らなければならない彼の気持ち、そして彼を見送らなければならないつらさ、この二つの気持ちが伝わってきたときは、涙なしでは読めないだろう。私も心打たれた。素直に感動する。

友情、学校への安心感と不信感、大人たちへの反抗、異性への淡い想い、さまざまな感情が少年たちを大人にする。私も今、大人になる前の段階なのだろうか？ 「大人」って一体何なのか？ 考えはじめても答えが見つかりそうにない。でも一つだけ私が忘れてたくないものがある。それは、子供のようなピュアさだ。いろんな経験をしていく中でこれだけは自分の中にとどめておきたい。

『いまを生きる』を読んで思うこと——それは人と人のつながりだ。一人の教師を通して変わり



だした少年。とても素晴らしいと思う。「つながり」があるからこそ信頼がわく。そしてもう一つ。それは“カムペ・ディエム”だ。私はこの本を読んだことでいろいろと考えさせられた。「いまを生きる」は、今を生きるための自分に大切なことを教えてくれるそんな一冊なのだ。



## 『四万十川』を読んで

機械工学科2年 泉 明 範

私は驚いていた。読み初めと読み終わった後の想いがこんなにも違うという事を。

篤義は大蛇に遭遇した。「食べられる」——そう思った彼は蛇に気付かれぬようにそっとその場を去った。それ以来、篤義の中の何処かに蛇が潜んでしまった。この本では篤義や千代子に対して「いじめ」を行うクラスの中の集団や俊博を、篤義の目を使って蛇にたとえている所があった。篤義が友達にからかわれている時も、千代子がいじめられる時も、大蛇が彼の近くに来ていたのだ。彼は蛇が恐くて何も言えない、何も出来ない。だから蛇に見付からないように、蛇を見ないように、いつでもそっと生きて来た。

私は、胸の中にどんよりとした雲がかかっていくような嫌な気分になってしまった。どうしてこんな気分になったかは分かっていた。私の中に篤義と同じように何処かに蛇が潜んでいるのだ。嫌な事を嫌と言えなかったり、正しいと思う事を正直に言えない。それに私自身が人の嫌がる事を言ったり、そんな部分を私は人に知られたくなかったし、認めたくなかった。そして忘れてしまいたかったのだ。この本を読むと見たくなかった自分がど

んどん見えてくるので先に書いたような気分になったのだらうと思う。そんな行動をとった後、私はいつも後悔する。そして明日からは絶対に同じことはするまいと思う。しかし暫くたつとまた同じことを繰り返しているのだ。嫌われるのが、傷つくのが恐いために、無意識のうちに私は蛇を飼ってしまっている、篤義と私は、時代や年齢や環境は違うが飼っている蛇は同じである。それは自分の弱さだ。

篤義が蛇と闘う時が来た。教室で俊博の鉛筆研ぎがなくなって千代子が疑われた。篤義は千代子が傷つくのを自分の痛みとして感じていた。篤義は自分が弱いために、いじめには加わらずとも千代子がいじめられている時に何もしないのは、いじめに加わっている事と同じだという事に自分はいじめの矢が向いた時の事を思い出し、自分が知らないうちに人を傷つけてしまっていた事に気づき彼は内なる蛇と闘い始めた。そして担任の先生に宛てた手紙にこう書いている。「もうよむしはやりません」と。

本を読み終わると私は気分がすっかり高揚してしまっていた。そして「私も闘おう」と思った。これはまたいつもと同じ決心なんだろうか、嫌な事を忘れてしまうための嘘なんだろうか。決心したといっても内なる蛇は本当に消えるかどうか分からない。でもこの本を読んだ事でじっくり自分自身を見詰め直し、そして一歩くらいは前に踏み出す事が出来たと思う。これからどんどん前進していくために、私は内なる蛇と闘い始めた篤義をいつも心のどこかに置いておけばいいと思う。

## 『岳物語』を読んで

情報工学科2年 小林 啓一郎

僕は今回、久しぶりに『岳物語』を読んだ。まだ子供のころにあまり漢字もわからないまま、昔、『BE P A L』に連載されていたこの作品を読んだ。当時は、父親に漢字の読みを教わりながら読んだのだが、今回とは大きく違った印象だったのでわづかであるが覚えている。



子供の時読んで感じた印象という、岳君に共感し、自分と照らしあわせることぐらいだった。

しかし、今回再び読むと、前とは全然違った印象を受けた。

作者は、息子の成長する様と、その変化に向き合う父親の様を文にしている。一冊たりとも真面目に本を読まなかった岳が、釣りに興味を持ち、大人が読むような入門書を読み、一人前になっていく。さらに、父親も知らないことを知り、アウトドアの世界にのめり込んでいく。そして、父親が旅から帰るたびに変化し、親離れが進んでいく。

そして父親と息子はたびたびいっしょに旅に出る。いっしょに釣りをし、ときには息子は父親の知らない知識や技法を使い父親を凌駕しようとする。父親はそのたびに息子の成長ぶりに目をみはる。

親子が同じ趣味を持ち、同じ時を過ごすのは、とてもよいことだと思う。

今夏、若い年代の凶悪な犯行が多発しているが、これは犯人たちが、社会的に独立できておらず、一個の人間として成長しきっていないためだと考える。自らの社会的な役割を知らず、後先も考えずたいした理由もなく犯行に及ぶ。まさしく、社会的に独立、つまり、一人の「大人」になれていないのだと思う。

なぜこの様なことを書いたかと言うと、僕はこの物語において、椎名さん夫婦が岳君を社会的に

独立させようとしていることが、感じ取れたからである。

そして、その独立への道程を椎名さん夫婦は岳君を一定の距離に置くことで成しとげようとしているのだと思った。そして、それはショウペンハウエルの寓話に由来する精神分析用語「ヤマアラシのジレンマ」の実践である。ヤマアラシの場合、相手に自分の温もりを伝えたいと思っても、身を寄せれば寄せるほど体中の刺でお互いを傷つけてしまう。人間にも同じことがいえる。大人になるってことは、近づいたり離れたりを繰り返して、お互いがあまり傷つかずに済む距離を見つけ出すということだと思う。つまり「つかず、離れず」の親子関係があらわれている。

椎名さんは旅行家である。したがって僻地に行ったりすると長期にわたって父子は顔を合わさない。岳君は淋しいであろうが、耐性が既にできている。夫が家を留守にすることが多ければ妻は子供が可哀想でつい過保護になることが多いと聞いたことがあるが、椎名夫人は夫同様岳君とは一線を画している。

親子の断絶が云々されて久しい。かといって、親子がベタベタと接近し合っていればいいというものではない。当然のことながら僕はまだ親ではない。しかし、親にとって最高の喜びは、親子が共通の話題をもって同じ時を過ごせることだと確信した。

## 『本校図書館』一般利用者アンケートの結果と寄稿

生涯学習の拠点として、地域の皆さんと共に学ぼうという目標を掲げてスタートした本校図書館の一般開放も、早や二年になろうとしています。工学系の専門書に偏りがちな蔵書構成にも拘わらず、現在180余名の方が利用者登録をされ、様々な目的で利用されています。

そこで、私たちはこれまでの反省と、今後の図書館運営の参考にするため、利用者の皆さまにアンケートを取らせて頂きました。

限られた期間内のことでもあり、すべての皆さまにという訳にはいきませんでした。一般開放を喜ばしいことだという回答を数多く得て、関係者一同喜んでいきます。

今後も、できる限りみなさまの要望にお応えして図書館の充実に励んで参りたいと考えています。

以下にアンケートの概要と、寄せられた感想をご紹介します。アンケートに御協力して頂いた皆さま、および原稿を快くお寄せ下さった皆さまにお礼を申し上げます。

## 《一般利用者アンケート結果》

アンケートに御協力して下さった方は19名で、無回答の部分もありますが、その集計結果を以下に示します。

◎年 齢：10代（3名） 20代（3名） 30代（1名）

40代（9名） 50代（2名） 60代（1名）

◎性 別：男 性（7名） 女 性（12名）

◎職 業：中学生（1名） 大学生（5名） 会社員（4名） 公務員（2名） 主婦（7名）

◎居住地：郡山市内（16名） 生駒市（1名） 天理市（1名） 吉野郡（1名）

1. 図書館の開放を何でお知りになりましたか。

広告・ちらし（5名） 市の図書館（7名） 口コミで（5名） その他（2名）

2. 図書館を利用される目的は何ですか。

調査（4名） 研究（2名） 趣味（10名） 娯楽（3名） 自習（2名）

3. 図書館をどれだけ利用されていますか。（月に何回）

1回（7名） 2回（4名） 3回（3名） 4回（3名）

4. 1回に借り出される図書冊数は何冊ぐらいですか。

1冊（1名） 2冊（5名） 3冊（13名）

5. 奈良高専図書館を利用して良かったとお考えですか。

良かった（17名） 無回答（2名）

6. これからも利用したいと思われますか。

利用したい（18名） 無回答（1名）

7. 図書館の雰囲気はどうですか。

①照 明：明るい（9名） 普通（9名）

②騒 音：静か（11名） 普通（6名） 騒がしい（2名）

③広 さ：広い（4名） 普通（10名） 狭い（4名）

④本の所在：わかりやすい（11名） 普通（5名） わかりにくい（2名）

⑤学生の態度：良い（7名） 普通（10名） 悪い（1名）

⑥職員の対応：良い（16名） 普通（2名）

8. 蔵書の構成はどうですか？

良い（4名） 普通（12名） 悪い（2名）

悪いと答えられた方は、どの分野が不足しているとお考えですか。

歴史（2名） 社会（2名） 文学（3名）

9. あなたの読みたい分野は何ですか。

哲学（1名） 歴史（5名） 科学（1名） 工学（1名） 産業（2名）

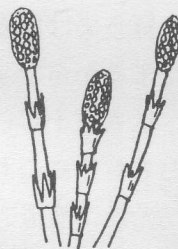
語学（1名） 文学（8名） その他（SF、宗教）

10. 奈良高専図書館では「図書館だより」を発行していますが、読んでみようと思われますか。

思う（17名） 思わない（1名）

11. 読書週間をご存じですか。

知っている（9名） 知らない（8名）





12. 奈良高専図書館あるいは学校に対するご意見・ご希望がありましたら、何でも結構ですからお書きください。

★一般人が利用させていただけるようになり、大変うれしく思っております。

★近くの図書館を利用できてとてもありがたいと思っています。

★最近出版された小説をもっと入れてほしい。人気のあるものは、複数冊入れてほしい。

★蔵書検索がよくわからない。

★会社の近くにあり、必要を感じたとき利用させて頂いております。工学関係の蔵書も多く、大変喜んでいきます。

★利用できるようになってよかったです。

★学生が騒がしいです。試験前は特に。

## 《一般利用者からの寄稿》

### 大好き、図書館

中山佳代

私は千日町に住む一主婦です。本を読むのは大好きなのですが、買うのは好きではありません。なぜでしょう。たまるからです。そして本が古びてゆくからです。私も三十年前は、壁一面本で埋まった部屋で、おもむろに心惹かれる書物を手に取る——といった光景に憧憬のまなざしをもっていたものです。しかし、主婦の立場からいけば本は、はっきりいって敵です。ほこりをかぶって放っておかれる本たち、——掃除のじゃま、場所ふさぎ、本のない空間をむしろ歓迎します。そんな私の強い味方、それが図書館なのです。新しい本と雑誌が次々並び、借りて帰って家で読んで返せば良いのですから。人生の中で、いくらおもしろくて感動したといっても、2回3回読み返す本は一般市民にはそうそうあるものではないし、読み返したくなればまた借りればよいのです。常に手元に置いておく必要はありません。そういうわけで高専の図書館にはすっかりお世話になっています。近くですので、結構重い「山と溪谷」や「くらしの手帳」も苦になりません。ほとんど理解できなかった芥川賞受賞作品も買っていたらよけい腹立ちの原因となったことでしょう。わが家の教養娯楽費を低く押さえて下さっている高専図書館に日々、深く感謝しております。

### ちょっとがHOTな気分

吉田礼子

高専の図書館が一般に開放されて以来、自宅から徒歩5分弱という恵まれた地の利も幸いし、大いに利用させてもらっている。

読書好き、そのうえいろいろの事(物)に興味を持ち、「何でも見てやろう」ではないが、あらゆる分野に渡って多くのことを学びたいと思うものにとっては、ほんの数分で行け、自由に手にとり借りれることはとても有り難い。

書棚の周りをうろうろしながら、「こんな本もあるんだ。次に借りよう」と、あれこれ見つける楽しみは宝探しのように胸がときめく。

言葉を交わすことは無いけれども、青春まっただ中にいる若い人達の様子を見るのも、また楽しいことであり、キャンパス内を歩いていると学生の頃を思い出す。

高専の授業に関連した専門書を借りることはマレであるが、特に美術関係のめぼしきと思える書籍・全集はほとんど目にしたのではないだろうか。夕食後の散歩途中に図書館の灯を目にすると、ちょっと寄って行こうと足が向く。

ビジュアル本や軽い読み物をサラッと見るだけの時間であっても、なぜかホット(HOT)な気分になれるのがいい。得した時を持ったように思えるのも、夜間営業(?)の一つの利点、魅力で

ある。

少し要望を申すなら、現代美術、作品集（絵画、彫刻、建築、写真…etc、ジャンルを問わない）などの個人で購入するには値が張るなという、しかも質の高いものを、新刊のみでなく、古書からも拾い出し、購入リストに加えてもらおうと有り難いです。

映画のビデオ、LPレコードなども備っているし、そのうちゆったりとした気分で懐かしき名画のシーンを楽しみたいと思う。

せっかく開放された図書館、学びの場として、又、より豊かな心の糧に親しみ、利用したいと思う。

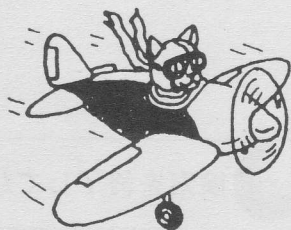
係りの方も、とても親切で助かります。  
ありがとうございました。

## 高専図書館を利用して

藤岡 治雄

もう二十数年前になるか、バスのなかから黒い鉄柵の中に濃緑色塗りの飛行機が置いてあって、その胴体に白縁の日の丸が描いてあるのを見て、ここは戦中の航空基地の跡かと思っていたが、当地へ引越して来てみると、爽やかな日の丸銀装機になっていた。米国製のT-6 テキササン練習機と説明したプレートが傍に立っている。ここがロボットコンテストで有名な奈良高専と知ったのはずっと後のことであった。

その図書館を一般人に公開されるという。さぞ理数工学図書がいっぱい詰まっているのだろうと思って2階の図書館に入ってみると、あるある右半分にそういった書籍がぎっしり書棚に並んでいる。でもさすがによく使い込まれているのが背中の壊れ具合でそれとわかる。



ずっと奥の床ちかくの棚にかけて技術史を学んでいたころの1950年代の「科学史研究」が合本整理され、すでに歴史的書籍になっていたのを貸していただいた。まだ戦争が終わっていないあの時分、細かい活字がぎっしり詰まっていた懐かしい雑誌である。

中央に閲覧室がある。沸き返るような賑やかさ、しかし雑談ではなくてここは元気いっぱいの学生の議論が沸騰している場である。ノートや教科書・図面を机いっぱいに広げた数人の学生が激論の最中である。隣の席では仲良し同士が計算式を書き込んだメモや教科書を前にひそひそと話し込んでいる姿もある。このあたりは公共図書館や大学図書館と違うのではないのだろうか。議論などしていると“カッ”とか“シー”の警音が飛んで来るところだが、ここはそんなものはなく、限りなく明るくて図書館という重々しい空気はどっかに飛び健康そのものでたいへんよろしい。でも静かに本を楽しむ雰囲気のある席も窓際の静かな場所に設けられている。

借り出した本にメモが挿み込まれていることがある。書き込まれた計算式や数字をついついみてしまう。戦中、本が無くて先輩から譲り渡された教科書のページに「ガンバレヨ」などと欄外に書き込まれていたのを思い出して、メモをそのままにして読みすすむ。誰かから誰かへのメッセージかもしれないと思って。

参考図書を全部電子化していただけないか。「活字よさようなら、電子よこんにちは」の時代がひたひた押し寄せているけれども、テレビ化は参考図書や辞書だけにとどめたい。だって再生装置を持っていないのでテープを借りても見られないのだから。

学校図書館は学習や教育それに研究の目的の為に設置されたものであるならば、一般人が利用しようとする時は、それなりの心得が必要ではないかと思う。「何か面白い本はないか？」ではなくて「自分は何を読みたいか！」とはっきり決めて書籍の林に踏み入れたい。この図書館は明るく元気で研究熱心な若い学生諸君ばかりだから、それ




なりの覚悟を持って足を運ぶならば、この「知識の館」でいくつもの宝石を見つけることができるに違いない。


矢田丘陵の静かな環境の中でこの図書館がいつ

までもこのままでいて欲しいと願うと同時に、前庭の飛行機が「黒い軍用機」に変身したりしないよう、いつまでも平和な日本の奈良高専であれと思うことしきりである。

## 新しい図書館システムに バージョンアップ!

新図書館情報ネットワークシステムの構築により、1月下旬から、検索画面も次のように一新しました。ぜひ図書館に来て、一度触ってみて下さい。きっとハマってしまいます。検索は、書名・著者名・出版社等のすべてから検索しますので、該当件数が多くなります。その時は、一覧を表示してから絞り込み検索を行ってください。目当ての図書が表示されたなら、必要に応じて詳細表示をどうぞ。そのほか、部分一致検索やあいまい検索なども自由自在です。わからないことがあれば、気軽に係員まで声をかけて下さい。お待ちしております。

 資料を検索する

 図書館からのお知らせ

実行したい処理の項目を選んで下さい。

### 奈良工業高等専門学校 図書館 検索

検索の実行

あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ	あ	や	ー	<input type="button" value="かな"/> <input type="button" value="カナ"/> <input type="button" value="英字"/> <input type="button" value="記号"/> <input type="button" value="全角"/> <input type="button" value="半角"/>
い	き	し	ち	に	ひ	み		り	を	い	ゆ	・	
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	ゆ	る	ん	う	よ	「	
え	け	せ	て	ね	へ	め		れ		え	つ	」	
お	こ	そ	と	の	ほ	も	よ	ろ		お		。	

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	空白
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

検索の実行

タリフ


訂正


漢字変換

確定

外字入力

検索文字列は、キーボードと画面の両方での入力が可能です。  
文字を入力した後は、必ず未確定になっている文字列を「確定」して下さい。  
確定されない場合、未確定の文字列は無効になります。

 検索を最初からやり直す

 検索を終了してメニューへ戻る

西 連 展 開 日 下 閉

## 第9回ブックハンティングを実施

毎年恒例となっているブックハンティングを、11月13日(木)市内の書店において実施しました。教官、図書館職員を含む約15名の学生図書委員たちが集まり、それぞれに欲しい本、気に入った本を買いました。あさりましたが、さて、その成果は…

今回のブックハンティングによって、次の86冊が新たに本校図書館の蔵書となりました。せいぜい利用されることを願っています。

### ブックハンティング購入リスト

書名	著者名
・3Dグラフィックスプログラミングfor Windows95	Thompson著 アスキー書籍編集部(訳)
・ゲームで覚える J A V A (CD-ROM付)	本 俊也
・バイク・メンテナンス (応用編)	名倉早苗等
・インターネット社会論	赤木昭夫
・雲 野外ハンドブック6	飯田陸治郎編
・自然と親しむ はじめての山歩き	石井明彦編
・幻のヴェネチア魚食堂 イタリア味見旅	貝谷郁子
・恋文(こいぶみ)画集・智恵子抄	高村智恵子(絵) 高村光太郎(詩)
・ケニアの女の物語	リキマニ著 丹埜靖子(訳)
・イザベラ・バード 旅の生涯	チェックランド著 川勝貴美(訳)
・「次」はこうなる	堺屋太一
・エンデ全集8 鏡のなかの鏡	エンデ著 丘沢静也(訳)
・Inside Macintosh:Overview	Apple Computer Inc.
・Macintosh ユーザのためのC++ (ディスク付)	マーク著 データリンク(訳)
・Direct X3 オフィシャルマニュアル(CD-ROM付)	マイクロソフト編
・星海への跳躍(上)(下) ハヤカワ文庫	アンダースン/ビースン著
・官僚崩壊 新しい官僚像を求めて	吉田和男
・マサチューセッツ工科大学	ハブグッド著 鶴岡雄二(訳)
・楽毅(がっき)第一巻 第二巻	宮城谷昌光
・隋唐演義(第1期全5巻)	田中芳樹編訳
・理系の学科案内'98 理系ならどの大学がいいか	坂井博幸編
・1973年のピンボール 講談社文庫	村上春樹
・カンガルー日和 講談社文庫	村上春樹
・回転木馬のデッド・ヒート 講談社文庫	村上春樹
・人に聞けないUNIXの使い方	アスキー書籍編集部編
・チベット「マンダラの国」	松本栄一(写真) 奥山直司(文)
・身近なモチーフで 鉛筆画を描く	西村俊雄
・秘伝 HTML,CGL,PerlによるWebプログラミング	Tittel等著 白田昭司等(訳)
・聖書の暗号	ドロズニン著 木原武一(訳)
・上村松園 秘めた女の想い 巨匠の日本画5	上村松園
・陰謀の日(全2巻)	シュルダン著 天馬龍行(訳)
・教科書が教えない歴史4	藤岡信勝/自由主義史観研究会
・すべての男は消耗品である	村上龍
・遠い太鼓 講談社文庫	村上春樹
・海人と天皇(あま) 日本とは何か(上)(下) 新潮文庫	梅原猛
・人間の土地 新潮文庫	サン＝テグジュペリ著 堀口大学(訳)
・水いらず 新潮文庫	サルトル著 伊吹武彦等(訳)
・樽 創元社推理文庫	クロフツ著 大久保康雄(訳)
・夜間飛行 新潮文庫	サン＝テグジュペリ著 堀口大学(訳)
・BAD KIDS バッドキッズ 集英社文庫	村山由佳
・人の砂漠 新潮社文庫	沢木耕太郎
・金田一少年の事件簿	天樹征丸(作) さとうふみや(画)
・13星座深層ホロスコープ これがわたしの本当の姿	ベッカー著



書 名

- ・東大オタク学講座
- ・教科書の要点をおさえた基礎からのベスト数学B
- ・ひ弱な男とフワフワした女の国日本
- ・関西おもしろ博物館
- ・仏教とキリスト教の常識
- ・翼
- ・すっぴん魂 (こん)
- ・馬の見方・選び方 的中率を上げるプロの目
- ・真田忍俠記(上)(下)
- ・俠客行 (きょうかくこう) 1 : 野良犬
- ・神谷美恵子 聖なる声
- ・不夜城
- ・裁判の秘密
- ・「困った人たち」とのつきあい方
- ・眠れぬ森の美女たち
- ・中国武将列伝(上)(下)
- ・物理基礎問題集 (増訂版)
- ・辞書なしで学べる ドイツ語の最初歩
- ・海嘯 (かいしょう)
- ・復原透し図 聖書の世界

著 者 名

- 岡田斗司夫
- 御園生善尚
- マークス寿子
- 藤井文子編
- ひろさちや、堀田雄康
- 村山由佳
- 室井滋
- 三木和夫
- 津本陽
- 金庸 (きんよう) 著 土屋文子 (訳)
- 宮原安春
- 馳星周
- 山口宏、副島隆彦
- ブラムソン著 鈴木重吉等(訳)
- 香山リカ
- 田中芳樹
- 木暮隆夫
- 大岩信太郎
- 田中芳樹
- ロバーツ著 池田裕(訳)

図書館からのお知らせ

★学年末休業中の図書館利用について

- ・開館日時 3月19日(木)～4月3日(金) 8:30～17:00まで  
土曜・夜間開館はありません。
- ・閉館日 4月6日(月)～7日(火) (館内整理、新年度準備のため)
- ・貸出冊数 6冊まで。3月13日(金)から貸し出します。
- ・返却日 4月8日(水)までに返却。

なお、卒業予定者は卒業当日までに必ず返却して下さい。もし紛失した場合は、図書館カウンターにてご相談ください。

- ★本校図書館のホームページが、新しく生まれ変わりました。研究室等外部からの蔵書検索が可能となり、(閲覧室での検索と違うところは1日のタイムラグがあるという点です。)またホームページからの文献複写の受付もまもなく開始の予定です。学習に教育・研究にぜひお役に立つことと確信しております。上手に利用していただけることを期待します。なお、ホームページ作成にご尽力くださった情報工学科の武藤先生に深謝いたします。

URL <http://libns.jimu.nara-k.ac.jp/>

編集後記

読書感想文コンクールの優秀作品の紹介に加え、一般利用者のアンケート結果、および寄稿を掲げました。学生諸君には多大な迷惑をかけましたが、図書館の新しい電算システムについて、館長と事務部から宣伝をかねての紹介がありました。多忙の中、原稿をお寄せ頂いた皆様にお礼を申し上げます。

(委員一同)